

松虫タイムス

千葉大学・園芸学部・応用昆虫学研究室、環境生物学的研究室、応用動物昆虫学研究室 同窓会

第15号

2007.12.17 発行 <http://www.h.chiba-u.jp/insect/matsumushi/>

総会特集号発行にあたって

松虫タイムス

会長 左近司 昌弘

今年は11月3日、第4回総会がありました。総会に先立つ幹事会で、幹事留任をお願いし皆様のご了承をいただきました。会長は別の方に努めて頂くよう要請しましたが、引き続き会長に留まり100周年記念事業まで続投して欲しい旨のご推薦がありました。未だ本山氏のこれからの目処が立っていない時なので引き受けることにしました。

総会では報告事項の中で、監査役の村井氏が病欠欠席の為、代役として桐原氏に監査をお願いし、監査結果の報告をしてもらい承認されました。次いで、現幹事、会長の留任を諮り承認されました。これから2年、不東ながら会長職を務めさせていただきます。その他、100周年記念事業は、松虫会として募金に応じたい旨の提案も承認されました。同記念事業の目標額に対し、現在は半分の1億円しか集まっておらず先行きが懸念されているので、個人は基より会としても募金に協力すべく振込用紙を同封しますので、宜しくご協力をお願い致します。

冬もこれからです。健康に留意されることを祈ります。

大学研究室の同窓会が果たす役割

松虫タイムス

千葉大学 研究担当理事・副学長

応用動物昆虫学研究室教授 天野 洋

ループ会・松実会・土葉会・花葉会……そして松虫会。千葉大学園芸学部の多くの研究室に、それぞれ個性輝く同窓会が存在します。ただ、どの同窓会も若者不足という共通の悩みを抱えながら運営されているようです。不思議なもので、卒業生／修了生が社会へと旅立とうとする時に、教員の直感でしょうか、何となくこの学生が卒業後も研究室と連絡を密にとるタイプか分かるものです。その方の優秀さや、面倒を見た／見てもらった度合いとは全く関係はありません。

ただ、その後の人生において、何らかのきっかけ（例えば、学位の取得や再就職など）で急に連絡が再開される事もまれではありません。結局のところ、大学時代の研究室（研究室の教員）の存在は『限りなく透明に近い』ものなのかも知れません。透明であるが故に、色もついてない。いや、各々の卒業生がそれぞれの色をつけて旅立って行くものかも知れません。どのような色をつけるかは勝手であり、色を変えるのも勝手です。都合の良い色をつけることが可能であり、必要に応じて色を使い分けても結構です。

近頃は少なくなりましたが、卒業生の結婚式で主賓の挨拶を依頼されることが多々ありました。我が家は、華やかな場を極度に嫌う連れ合いの関係で、一度も仲人のような役割を果たした事はありません。その代わり、孤軍奮闘して主賓の挨拶だけはしっかりと努めてきました。社会で活躍する卒業生の結婚式ですから、挨拶一つにしても、それぞれの組織（相手方の組織も含めて）の中で配慮すべきバランスには気を使っていることと思います。そのような時に、大学の『透明さ』は大変に利用価値が高まります。それに、大抵の教員は講義で喋り慣れていますから（質的保証とは無関係ですが）、まず断らない。

研究室の同窓会は、卒業生／修了生に対して『限りなく透明に近い』事が大切だとこの頃思い始めました。同窓会の皆さんが、人生の折々に色々な（オヤジギャグ？）思いを持って利用して頂ければ、十分な役割を果たしているのかも知れません。私は、学部評議員／学部長／理事・副学長の責務を終え、来年4月から6年振りに研究室へ帰ってきます。その思いも、あえて言うならば『限りなく透明に近い』と表現できるかと感じています。

松虫会の皆様とともに、新しいキャンパスに斬新な色合いで、新たな一頁を付け加えたいと思っています。

第4回総会出席者 19名 (敬称略・50音順)

井上 大成・市川 千代・岩淵 喜久男・伊沢 尚子・江本 暁・上遠野 富士夫・桐原 重樹・小池 朗
後藤 哲雄・左近司 昌弘・波多野 連平・早岡 辰巳・春山 直人・笛木 豊二・前田 正孝
本山 直樹・湯浅 光一・天野 洋・野村 昌史

<第4回 松虫総会報告資料>

1 会長挨拶

2 2年間の行事報告 … (事務局)

1) H17. 11. 3 第3回総会 (出席者 22名)

2) H17. 12. 12 松虫タイムス 第10号発刊

H18. 3. 27 ” 第11号発刊

10. 1 ” 第12号発刊

H19. 3. 30 ” 第13号発刊

9. 20 ” 第14号発刊

3) 分科会

H18. 3. 27 応用昆大会時分科会 (筑波大学)

H18.10. 6 名月を愛でる会 出席者 13名

H19. 3. 27 応用昆大会時分科会 (広島大学)

H19. 5. 12 名月を愛でる会 出席者 14名

3 会員の動静

1) 入退会 入会者 H 18. 3 月卒 (木村薫・佐々木康匡・高橋侑美佳・立松光子)

H 19. 3 月卒 (岩井真紀子・岩本未香・大西祐子・佐藤仁美)

退会者 脱会 H 19. 4 棚橋 国成

* 総会員数 362名 (2007.11.1 現在)

2) 学位取得

川島 充博 Effect of Microstructure on Habitat Selection of Phytoseiid Mites and its Possible Use as a Biological Control Agent

滝 久智 Effects of Habitat Loss in a Canadian Deciduous Forest: Analyses of Understory Plant and Insect Relationships

成田 聡子 Studies on the effects of a symbiotic bacterium *Wolbachia* on development and evolution of *Eurema* butterflies

3) 異動等 2007.3 上遠野 富士夫 千葉県暖地園芸研究所長

4 会費の納入状況

19年度までの納入者数 70名

18年度までの納入者数 102名

5 会計報告 別記

6 会計監査報告 … 監査役 村井 文彦氏 代理 桐原 重樹氏

7 幹事の承認 別記

8 その他 … 100周年記念事業における寄附の件

9 閉会の挨拶 会長

引き続き、懇親会が行われ、旧交を暖めました。



総会に先立ちまして本山直樹先生の記念講演が「私の過ごした時代 - 農業研究 42 年を振り返って -」と題して行われました。松虫会会員の他にも多くの方々が出席し、本山先生も好調にお話しいただき、なんと 2 時間半もご自分のご半生を振り返っていただきました。本山先生は大変満足げで「もうこれで過去は振り返りません！」と力強く宣言されていたので、これから是非前を見ていただいて現在もいろいろなことで活躍の先生ですが、なお一層のご活躍を祈念したいと思います。



松虫会 会計報告

事務局から以下のように報告され、総会で了承されました。

2005年度

項 目	収 入	支 出	合 計
2004年度繰越	282,204		282,204
年会費	34,000		316,204
懇親会費	126,000		442,204
懇親会費		150,700	291,504
香典		20,000	271,504
通信費		1,040	270,464
松虫タイムスコピー代		8,820	261,644
通信費		21,430	240,214
年会費	12,000		252,214
通信費		39,420	212,794
年会費 (H 17 年度 23-36 号)	31,090		243,884
年会費	19,000		262,884
松虫タイムス・名簿コピー代		70,000	192,884
松虫タイムスコピー代		15,000	177,884
通信費		21,820	156,064
文具代		4,200	151,864
年会費	13,000		164,864
年会費 (H 18 年度 1-26 号)	195,920		360,784
総 計	713,214	352,430	360,784

2006年度

項 目	収 入	支 出	合 計
2005年度繰越	360,784		360,784
年会費	10,000		370,784
寄附	2,000		372,784
通信費		22,930	349,854
年会費	4,000		353,854
年会費 (H 18 年度 27-32 号)	22,480		376,334
松虫タイムスコピー代		15,000	361,334
幹事会交通費		10,580	350,754
通信費		200	350,554
年会費	14,000		364,554
通信費		36,235	328,319
松虫タイムスコピー代		15,000	313,319
通信費		280	313,039
年会費 (H 19 年度 1-5 号)	3,700		316,739
総 計	416,964	100,225	316,739

郵便局に 244,840 円 現金で 71,899 円

市川千代さんより 2,000 円、真梶安子さんより 6,000 円 (郵便) ご寄附頂きました

会計監査報告

平成 19 年 11 月 3 日、松虫会の会計について、出納帳、領収書、郵便局、口座、現金を監査したところ、すべて適正に処理されていたのでここに報告します。

会計監査 村井文彦

代行 桐原重雄

＜新幹事の紹介＞

★会 長 左近司 昌弘氏（留任）・・・1957年（S32）年卒・第5回生

○野村健一先生 卒業生

桐原 重樹氏（留任）・・・1961（S36）年卒・第9回生

本山 直樹氏（留任）・・・1966（S41）年卒・第14回生

○真梶徳純先生 卒業生

波多野連平氏（留任）・・・1981（S56）年卒・真梶先生第1期生

伊沢 尚子氏（留任）・・・1988（S63）年卒

○天野 洋先生 卒業生

小池 朗氏（留任）・・・1995（H7）年卒・応用動物昆虫学研究室第1期生

春山 直人氏（新任）・・・2006（H18）年卒

☆会計監査 村井 文彦氏（留任）・・・1955（S30）年卒・第3回生

○学内幹事 野村 昌史（留任）

新幹事挨拶

松虫タイムス

松虫会員の皆様こんにちは。過日の松虫会総会にて、新幹事を拝命しました春山と申します。

大学・大学院時代には、クサカゲロウ科の生態と分子系統に関する研究をしていました。

2005年度に修士課程を修了したのち、栃木県農業試験場のビール麦品質研究室に配属されて今に至ります。

現在、残念ながら仕事の担当では昆虫から離れておりますが、休暇には時折野村先生の採集や調査に同行させていただいたり、学生時代にお世話になっていた筑波の研究所の方々と採集に行ったりと、相変わらずこちらの世界にも片足を突っ込んでいる状態です。

栃木から松戸へは交通の便も比較的良好のため、研究室や松虫会のお力になれることがあれば尽力させていただきたいと存じます。

本業の方も、現在担当している植物側からの視点を身につけた上で、将来的には虫害防除に関する技術開発に生かしたい所存でありますので、その方面の方々には今後ともご指導のほどお願いいたします。

会費納入のお願い（会長より）

松虫タイムス

松 虫会の運営は皆様の会費で賄うことを原則とし、会員の皆様に会員の情報を多く提供し、同窓の結束を固め相互の理解を深めることなどを目的に、通常年2回、総会年3回の松虫タイムスを発行しています。

- * このことは千葉大学各グループの中で特筆される存在になっています・・・が、松虫タイムス発行には人の努力と費用が欠かせません。多少のバラツキがありますが、発送代とコピー代で、平均36,000円程になります。
- * その他、2年に1度、名簿を発行しています。1回70,000円程になります。
- * 2005年度の会費納入が305,000円。大分遅れを取り戻しましたが、2006年度の会費納入は56,000円。今回は総会特集号で振込用紙を同封する予定であったので、総会前に集金していないためと思われます・・・。
- * 懇親会の出席通知を頂いた方と実際の出席者は2005年で5名減。今年は6名減。料理の人数分を少なく発注すれば済みそうですが、前日までに取り消しもせず、当日欠席の会費も振り込まないのは、社会人としての資質が問題なのかも・・・。

いずれにしても今回の松虫タイムスをお送りする際には、会費ならびに100周年記念事業募金の振込用紙をお届けしますので、よろしくご配慮いただきたいと思います。

会費と100周年事業…今回の振込用紙

松虫タイムス

今回の振込用紙には従来の会費納入の他に100周年記念事業への寄付についてもチェックする欄を設けました。ここにチェックしていただけた場合、1口1000円で合計で10万円を100周年記念事業に「松虫会」の名前で寄付させていただきます。この場合、個人名は記念事業会の方には出て行きませんから、これで正式な寄付をしたということにはなりません。100周年記念事業にご賛同いただける方は個人での寄付をお願いいたします。もし10万円に満たない場合は申し訳ありませんが、幹事会や総会でもお認めいただけましたように松虫会運営費の方から補填させていただきます。

また年会費の納入についても、何とぞよろしくお願い申し上げます。上で会長もお嘆きのとおり、皆様の会費納入が全てでございまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

総会特集号は総会が終わって間もないうちに出したいと思っているのですが、今回はとうとう年の瀬近くになってしまいました。会長はじめ皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。なんとか年内に出せてほっとしています。

今回は総会へのご出席は少なかったものの出欠葉書には多くの方からメッセージをいただきました。それをそのまま事務局に置いていてももったいないと思い、景山さんのアイデアできれいにまとめていただきました。懐かしい人のメッセージもあるかと思います。楽しんで、そして次回の総会には多くの方のご出席をお待ちしています。いよいよ本山先生もご退職になりますので、記念行事を行いたいと思います。是非ご出席をお願いいたします。 MN（おかげさまで子供の腕は完治しました。ご心配ありがとうございました）